EDITORIAL

性差医療と口腔保健
Gender-specific medicine and oral health

わが国の平均寿命をみると明らかな性差が認められる。例えば、1969年には男性69.2歳、女性74.7歳であったものが、1987年にはそれぞれ75.6歳、81.4歳、2005年には78.5歳、85.5歳となり、男性に比べ女性の平均寿命は約7年長く、その差は広がってきている[1)]。この差は、生殖系臓器に関わらず非生殖系臓器における自己免疫疾患、脳血管疾患、循環器疾患など疾患罹患における性差をはじめ、その要因として、遺伝子、ホルモンなど生物学的な要因と、社会環境、保健行動の違いという環境・行動的な要因が複合的に関与していると考えられる。一方、女性の健康寿命でみると、平均寿命の伸びに比例して自立した健康寿命が長くなっているわけではなく、むしろ相対的には女性の健康寿命は男性に比べて短い[2)]。

歯の保持と生命予後

著者らが行った40歳～89歳の5,719名を対象にした15年間コホート調査においても、歯の保存状態と生命予後との関連には明らかな性差が認められている。すなわち、性別および年齢群別のKaplan-Meier法による分析では、80～89歳の年齢群でその累積生存率は、男性では機能歯数「10歯未満群」0.25、「10歯以上群」0.54、女性では0.42および0.67であり、男性では約2倍、女性では約1.5倍の生存率であった。しかし、COX比例ハザード分析を用い、年齢、全身状態など交絡因子を調整して、機能歯数と生命予後との関連をみると、有意な関連は男性でのみ認められた[3)]。それに対して、義歯の装着の有無と生命予後との関連を機能歯数10歯未満の群で、分析すると、Kaplan-Meier法およびCOX比例ハザード分析で、女性において義歯装着群の生命予後が、義歯未装着群に比べて有意に高いという結果が示された[4)]。これらの結果は、歯を保持することと歯科治療によって咀嚼機能を回復することの意義を生命予後の観点からみた場合に、男女で異なった解釈が成り立つことを示している。

年齢階級別現在歯数の推移

疫学的にみた歯の保存状況は、これまで女性が男性に比べ年齢階級別にみて歯の喪失リスクは高いと考えられてきたが、その差は少なくなっている傾向がみられる。すなわち、厚生労働省歯科疾患実態調査から現在歯数をみると、60歳～64歳の年齢群で1969年調査では男性15.4歯、女性10.0歯であり、1987年ではそれぞれ16.9歯、13.4歯、2005年では21.7歯、21.0歯とその差は約30年の間で、5.4歯から0.7歯にまで減少してきた[5)]。この現象は、何を意味しているのか。この要因を考える場合に、歯の保持に関わる生物学的な要因と口腔保健行動など環境・行動的要因を解析する必要がある。しかしながら、このような研究は極めて少なく、これまでの口腔保健施策はもとより歯科医療でも、必ずしも性差に立脚した体系にはいたっていない。

口腔保健に関する認知と行動

口腔保健行動をはじめとした健康に関わる生活習慣には、これまでいくつかの性差が認められてきた[6)]。口腔清掃行動、摂食行動、歯科受診・受療行動という口腔保健行動のなかには、年次的な推移でみるとその性差が少なくなってきているものがあるが、口腔清掃行動では、わが国の1987年調査で「歯を2回以上磨く者」の割合は、男性34.0％、女性52.0％であり、2005年調査でも58.0％、79.4％と現在でも明らかな差異が認められている[5)]。さらに、口腔保健用語の認知度や歯科治療に対する不安など認知的な側面でも性差は無視できない[6)]。このような健康に関する認知・行動における性差は、保健医療における健康教育の成果

に直接関連していくものであり、生活習慣病対策に必要な視点である。

性差に着目した保健医療体系は、これからの保健医療の質を変えるものであり、歯科医学、口腔保健におけるこの分野の再検討と追究によって、保健医療全体に貢献できる点は少なくないと考えられる。

深井穫博
深井保健科学研究所所長
Kakuhiro Fukai, D.D.S., Ph.D
Director, Fukai Institute of Health Science

文　献

1）厚生労働省：人口動態統計，1969，1987，2005.
2）大内尉義：性差医療の考え方と課題－老年医学の立場から－，学術の動向　2006，11：40-45.
3）Fukai K., Takiguchi T., Ando Y., Aoyama H., Miyakawa Y., Ito G., Inoue M., Sasaki H. : Dental health and 15-year mortality in a cohort of community-residing older people, Geriatr Gerontol Int, 7：341-347，2007.
4）Fukai K., Takiguchi T., Ando Y., Aoyama H., Miyakawa Y., Ito G., Inoue M., Sasaki H.: Mortalities of community-residing adult residents with and without dentures, Geriatr Gerontol Int, 8：152-159，2008.
5）厚生労働省:歯科疾患実態調査，1969，1987，2005.
6）Fukai, K., Takaesu, Y. and Maki, Y. : Gender differences in oral health behavior and general health habits in an adult population, Bull Tokyo Dent Coll, 40：187-193，1999.